

# 給食福岡



田植え



稲刈り



市丸健康レンジャー

食への関心を高め、

望ましい食生活を  
めざす子どもの育成



ガシャモクの妖精  
ガシャモッピー

北九州市立 市丸小学校



とれたて市丸畑から



野菜の栽培活動

詳細は最終ページに掲載

もくじ	食育指導実践例 筑前町立三輪小学校 .....	2P
	令和6年度 福岡県学校給食研究指定校及び研究主題 .....	4P
	栄養士ノート .....	5P
	おすすめメニュー .....	5P
	表紙の写真は… .....	6P
	令和6年度 広報紙「給食福岡」編集委員会委員紹介 .....	6P

広報紙「給食福岡」  
編集  
広報紙「給食福岡」編集委員会  
発行  
公益財団法人福岡県学校給食会  
福岡県筑紫野市紫3丁目1番1号  
TEL.092-923-3322

ホームページ  
<https://www.fukukyuu.or.jp>

広報紙「給食福岡」

\* 回覧をお願いします \*  
(回覧時に御活用ください)

# 食とのつながりを大切にする児童の育成

～こころ・からだ・生活の振り返りと見える化の取組～

筑前町立三輪小学校

## 1 研究主題及び副主題について

### <食とのつながりを大切にする児童の育成>

食とのつながりとは、自分と食との関係性を指している。関係性には食に関わる人の生産、流通、消費、文化（歴史）、自分の生活といった具体的な要素があると捉えている。これは、健康な食生活を実現していくための非常に重要な要素である。食とのつながりを大切にする児童の育成とは、今まで気づけなかった関係性を再認識していくことで、その大切さに気づき、食や食文化への感謝や尊重する心を持ち続けて実践していこうとする児童を育成していくことである。

### <こころ・からだ・生活の振り返りと見える化>

こころ・からだ・生活の振り返りとは、こころ面、からだ面、生活面の3つの柱から自身の学びを自己評価、チェックテスト、アンケート、調査活動などを実施することで取り組んできた成果（変化）を見取ることである。見える化は、その変化を実感するために、3つの柱と児童とのつながり（感覚的な距離感）を全体で可視化していくことである。

## 2 研究においてめざす児童像

地域の食や給食への関心（地域の食、給食）を高め、筑前町の食について誇りと共感（地域の取組）を持ちながら、食の取組に意欲的に関わり実践（自身の実践、将来の展望）していこうとする児童

**指標1** 関心、共感、実践・展望の意識の向上

**指標2** ※朝食摂取率の向上（参考指標）

## 3 具体的な手立て

### (1) 「食とのつながり」を3つの柱からアプローチしていく。

#### ア 地域と食

総合的な学習の時間を中心に地域の特産や地産地消の現状から自分たちと地域の食のつながりを理解し、これからの社会をつくっていくために自分たちにできることを考えていく。



5年 総合的な学習の時間  
「米作りプロジェクト」

#### イ 自分たちと食

学級活動(1)(2)の時間を中心に給食や自分たちの食生活における諸問題や健康、またアレルギーなどに関する知識を広げ、給食時間の楽しい場づくりや課題解決するための方法を考えていく。



1年 学級活動  
「きゅうしょくにくにこ大きせん」

#### ウ 心と食

食のために地域や社会に尽力している人の思いや心情からこれからの自分をみつめ、食を大切にしていこうとする心情を広げていく。



2年 道徳科  
「みっちゃんといーまん」

### (2) 自己の振り返り活動を設定し見える化して変化を見取る。

- ア アンケート、チェックテストの実施
- イ 食の実態や地域、家庭の現状のデータ化
- ウ 楽しい給食の場や異学年交流の工夫、「食べきり度」のグラフ

## 4 具体的実践



### ○3年 総合的な学習の時間「クロダマルの秘密 PR 大作戦」

筑前町の特産物「クロダマル」（黒大豆）の魅力を広げていくために自分たちでできることを考え実践していった。導入段階ではさまざまな調査活動を経て、伝える方法など計画を練り上げた。実践前半では**ポスターグループ** **マスコットグループ** **コマーシャルグループ**に分かれて、考案した作戦をつくり特徴や課題を吟味していった。実践後半では全体で会議を開きグループ交流を行い修正を加えていった。終末段階では実際に地域や校内に配信してきた。



コマーシャルの特徴を紹介する

実践後は「私たちのポスターやマスコットをみて、知って買ってくれる（クロダマルの商品）人がふえるといいな」といった感想をもつ児童も多く、地域の特産物に誇りと共感をもつことができた実践となった。

### ○自分たちの豊かな食生活につながる計画や実践の足跡の掲示

児童に、給食や食に関わる人や物事への関わり、食事の重要性を理解させる。給食委員会が毎月のめあてのポスターを作成したり、毎学期『食べきり大作戦』の取組を実施したりする。「食器に何ものこさんデー」や「食べきりピカピカ大作戦」など学期によってテーマを変えて実施した。

これらの取組を継続していくことで、給食の食べ方を改善しようとする姿が見られるようになってきた。



食べきり大作戦のカードと表彰状

### ○調査活動等での食に関する実態調査

給食の食べ方について課題がみられることから、給食を食べた量について計測し、食べきりポイントとして校内に掲示した。また、残食が増えてきた時は、残食を食品ロスの数値として示し、毎日掲示した。

自分と直接関わりのある給食の課題を数字で見える化したことで、一人ひとりが意識を持って実践していくことができた。

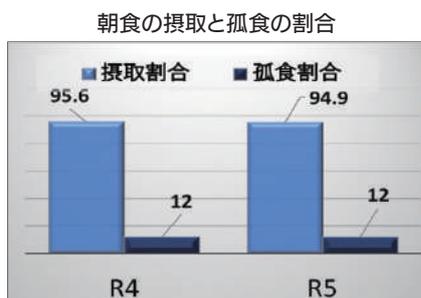


食べきり度と食品ロスの掲示

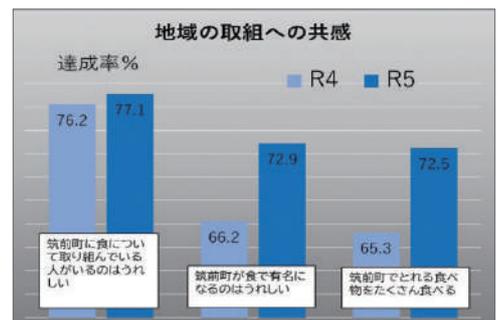
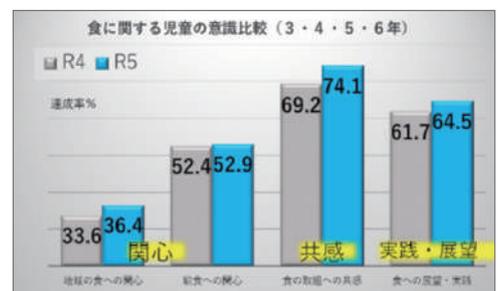
## 5 研究の成果と課題

令和4年度から令和5年度の児童の意識の変容は、関心度、共感度、実践意欲などが高まった。中でも**地域の食の取組に関する共感度**は最も大きな変化があった。食につながる身近な人・もの・ことが具体的にイメージでき、食と自分とのつながりを意識できた成果であると考えられる。

しかし、**自分と食**という柱に関しては実践の前後で大きな変化はなかった。給食の時間をさらに効果的に活用し、自分自身と食とのつながりを今後も意識させ実践を促す取組が必要である。



また、朝食の摂取率に関しては、大きな変化はなかった。しかし、本研究の取組を継続していくことにより、家庭との連携を深め、食に対する関心を高めることが朝食の摂取率にも寄与すると考える。



## 令和6年度 福岡県学校給食研究指定校及び研究主題

学 校 名	研 究 主 題	研究発表会 (予定)
うきは市立千年小学校 (令和6・7年度)	食に関心をもち、食を楽しむ子どもの育成 ～教科等横断的なカリキュラムづくりを通して～ (令和6・7年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業研究計画書より)	令和7年度
桂川町立桂川小学校 桂川町立桂川東小学校 (令和6・7年度) (小中連携)	食への関心を高め、 自分の食生活を豊かにしようとする児童生徒の育成 ～小中連携による食に関する指導の充実を通して～ (令和6・7年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業研究計画書より)	令和7年度
桂川町立桂川中学校 (令和6・7年度) (小中連携)	食への関心を高め、 自分の食生活を豊かにしようとする児童生徒の育成 ～小中連携による食に関する指導の充実を通して～ (令和6・7年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業研究計画書より)	令和7年度
上毛町立西吉富小学校 (令和6・7年度)	健全な食生活を実践することができる児童の育成 ～授業の学びが日常生活で生きる「ふり返りシート」の工夫を通して～ (令和6・7年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業研究計画書より)	令和7年度
福岡県立 筑後特別支援学校 (令和6・7年度)	児童生徒が主体的に学ぶことのできる食育指導の在り方 ～発達段階に応じた授業づくりを通して～ (令和6・7年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業研究計画書より)	令和7年度
福岡市立志賀島小学校 (令和6・7年度)	地域の食に興味・関心をもち、 郷土志賀島を大切にする児童の育成 ～地域の特産物や郷土料理についての学習を通して～ (令和6・7年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業研究計画書より)	令和7年度
太宰府市立 太宰府東中学校 (令和5・6年度)	望ましい食習慣の形成を図る生徒の育成 ～生徒が主体的に食に向き合うことを促す取組と関係機関との 連携をとおして～ (令和5・6年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業中間報告書より)	令和6年 10月下旬 オンデマンド 配信
岡垣町立山田小学校 (令和5・6年度)	主体的に望ましい食習慣を身につけようとする子供の育成 ～食育の視点を取り入れた学級活動(2)の指導と給食指導を通して～ (令和5・6年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業中間報告書より)	令和6年 11月13日 (水)
大牟田市立松原中学校 (令和5・6年度)	成長期における望ましい生活(食)習慣を身につけた生徒の育成 ～家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を通して～ (令和5・6年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業中間報告書より)	令和6年 10月30日 (水)
福岡県立 福岡視覚特別支援学校 (令和5・6年度)	食に主体的に関わり、 望ましい食習慣を身に付ける幼児児童生徒の育成 ～教科等との関連付けの工夫を通して～ (令和5・6年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業中間報告書より)	令和6年 11月20日 (水)
北九州市立市丸小学校 (令和5・6年度)	食への関心を高め、望ましい食生活をめざす子どもの育成 ～地域の「ひと・もの・こと」とのつながりや関わりを通して～ (令和5・6年度福岡県学校給食研究指定委嘱事業中間報告書より)	令和6年 11月1日 (金)

※研究発表会の詳細については、学校にお問い合わせください。



## 栄養士ノート

### 食育コーディネーターを目指して



北九州市立あやめが丘小学校  
栄養教諭 安松 佳江

12年間の栄養教諭生活、食に関する指導について振り返ると、若年時は、がむしゃらに授業づくりに取り組み、内容を教え込むことに重点を置いた食に関する指導をしていたと感じます。しかし、経験を重ねるにつれてJAや農家、漁師など食料生産に携わる方々と関わる機会が増え、私たちの食を支える人々と子どもたちをつなげたいという思いが強くなりました。このような思いから、「食育コーディネーターとして」食に関する指導を行うことが私の目指すものとなりました。

まずは、給食の野菜を育てている地元の農家の方を子ども

たちとつなげたいと考え、社会科の学習の中で農業について学ぶ5年生に、農家の方をGT(ゲストティーチャー)として招いた授業実践をすることにしました。事前に農業のイメージを子どもたちに聞くと「きつい仕事」「高齢者」などの意見が聞かれました。授業では、北九州市で育てられている野菜や、生産者としての農業にかかる思い、自給率の低下をはじめとした現在の農業が抱える課題などの内容を位置づけました。特に、農家の方のやりがいや苦労については、しっかりと時間をかけて語っていただきました。農家の方から「農家の平均寿命は、67歳。10年後、20年後、日本の野菜が食べられない日が来るかもしれない。」というメッセージが伝えられると子どもたちの目の色が変わり、一人ひとりが真剣に受けとめたことが分かりました。その後、自分たちが日本の農業を守るために何ができるかを考え、「野菜を残さず食べる。」「地元の野菜を食べる。」「農業にかかわる仕事につきたい。」など子どもたちが自分にできることを考えている様子に嬉しく思いました。

食を支える人たちと子どもたちをつなぐ授業を展開するに当たり、担任やGT、栄養教諭の思いをつなぐ難しさも感じましたが、子どもたちが食を支える人たちとつながることで、自分を取り巻く食について考え、行動できるように、「食育コーディネーターとして」取り組んでいきたいと思います。

## おすすめメニュー

福岡県立北九州視覚特別支援学校  
栄養教諭 永原 陽子

### 厚揚げのみそグラタン

厚揚げがメインのグラタンです。白葱や椎茸などの和の食材も入り、ソースの中に味噌が入るので、パンにもごはんにも合う一品です。カルシウムや鉄分がたっぷりです。子どもたちにも人気の献立です。



#### 献立例

ワンローフ食パン、牛乳、厚揚げのみそグラタン、コールスローサラダ、トマトスープ、ミニフィッシュ

#### 栄養価(1人分)

エネルギー258kcal たんぱく質13.8g 脂質18.0g  
食塩相当量1.1g カルシウム324mg マグネシウム57mg  
鉄2.4mg VA48μgRAE VB<sub>1</sub>0.12mg VB<sub>2</sub>0.14mg  
VC5mg 食物繊維総量1.4g 亜鉛1.3mg

#### 材料

	<1人分>	<4人分>
●厚揚げ	80g	320g
●ベーコン	5g	20g
●人参	5g	20g
●生椎茸	5g	20g
●白葱	10g	40g
●サラダ油	2g	8g(小さじ2)
●ベシヤメルソース(顆粒)	10g	40g
●牛乳	25g	100g
●米味噌	4g	16g(大さじ1弱)
●塩	0.2g	0.8g(少々)
●こしょう	0.01g	0.04g(少々)
●シュレッドチーズ	8g	32g
●ケース	1つ	4つ

#### 作り方

- 厚揚げはひと口大、ベーコンは短冊、人参は4cm長さのせん切り、生椎茸はスライス、白葱は斜め薄切りにしておく。
- 鍋にサラダ油を熱し、ベーコン、人参、生椎茸の順に炒める。火が通ったら白葱を加える。
- ②に牛乳で溶いたベシヤメルソース、米味噌、塩、こしょうを加え調味する。
- ケースに厚揚げを並べ入れる。
- 上から③、シュレッドチーズをかけ、オーブンで焼く。(焼き時間の目安 180℃、15分程度)

# 食への関心を高め、 望ましい食生活をめざす子どもの育成

北九州市立市丸小学校

本校は、日本三大カルスト台地のひとつである平尾台の麓にある、全校児童41名の小規模校です。恵まれた環境の中で自然や歴史を学び、地域に誇りをもつ取組を行っています。校区のお糸池に生育している絶滅危惧種の水草「ガシャモク」の保全活動を行ったり、藍や綿を育て、小倉織体験を行ったりしています。

さて、令和5・6年度に福岡県学校給食研究指定委嘱を受け、研究テーマを「食への関心を高め、望ましい食生活をめざす子どもの育成」と設定し取り組んでいます。学校全体で行う稲作体験活動では、田植え、稲刈りと収穫祭を行いました。収穫祭では、各学年からの学習発表、「まごわやさしい」の全校合唱、「朝ごはんレシピコンクール」の表彰式を行いました。また、保護者の協力で、みそ汁を作り、収穫したお米を薪で炊いて、児童がおにぎり作りをしました。お世話になっている地域の方をお招きして感謝の気持ちを伝え、児童と保護者も一緒に、おにぎりを味わうことができました。また、栽培活動では、収穫した野菜を家庭に持ち帰り、各家庭で料理作りをしました。その際、「とれたて 市丸畑から」と題して、写真や作り方を書いて掲示する取組につなげました。児童が一生懸命に育てた野菜を、家庭の協力により、多くの料理に姿を変え、共有することができました。

市丸健康レンジャーは、健康保健委員会の活動のひとつで、「市丸小学校を元気100%にします」が合言葉です。小規模校のため、体育委員会、保健委員会、給食委員会を合わせたような充実した活動を行っています。

上記の活動以外にも、各学年の教科等での取組、給食時間の取組などを通して、望ましい食生活をめざす子どもの育成に全教職員で取り組んでいます。11月1日には、これまでの研究を発表する予定です。

## 令和6年度 広報紙「給食福岡」編集委員会委員紹介

令和6年度広報紙「給食福岡」編集委員会委員を令和6年4月1日付けで次の9名の方に委嘱しましたので紹介します。（敬称は省略しています。）

Vol.120(2024.7月号)～Vol.125(2025.5月号)の編集に携わっていただきます。令和6年5月27日に第1回編集委員会を開催し、今年度の内容等について協議していただきました。



第1回編集委員会の様子

- ◎委員長 後藤 重治（うきは市立千年小学校・校長）
- ◎副委員長 企救岳 礼（上毛町立西吉富小学校・校長）
- ◎委員 大野 義仁（福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課・指導主事）
- 中川 幸子（福岡県教育庁北九州教育事務所・指導主事）
- 矢野 沙織（福岡県教育庁筑豊教育事務所・指導主事）
- 上保 みほ（太宰府市立太宰府東中学校・教諭）
- 大部 実穂（大牟田市立松原中学校・栄養教諭）
- 永田 健一（福岡県PTA連合会・副会長）  
（熊本 友和 委員の後任として6/4委嘱）
- 梅野 憲司（公益財団法人福岡県学校給食会・総務課長代理兼総務係長）